

平和と友情の21世紀を築こう

Vol.69

会 報



公益財団法人 松前国際友好財団

2017.4.1

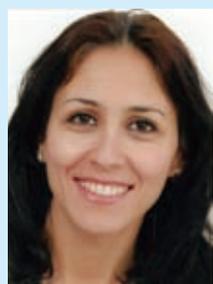


国内研修旅行で紅葉の京都（金閣寺）を観光する奨学者

奨学者からのたより

- ① 現在の職業・地位等
- ② 本財団が日本へ招聘した年度
- ③ 受入研究機関と指導教官（ただし、招聘した当時のデータ）

編集・翻訳責任：松前国際友好財団



アニッサ・アウニ博士
(チュニジア共和国)

Dr. Anissa AOUNI (Tunisia)

- ① ボルジュセドリア・ハイテク産業都市 水研究テクノロジーセンター 排水処理研究所 助教授
- ② 2015年度招聘
- ③ 信州大学 繊維学部化学・材料系材料化学工学課程 教授 木村 睦

2016年9月5日

メールとお写真をお送りいただきありがとうございます。

しばらくご連絡できませんでしたが、いつも私を皆様の友人として受け入れていただいていることに感謝を申し上げます。

先日お送りしたチュニジアからのお土産を、お気に召していただいたようで大変うれしく思います。また、最初にお送りした皿については、私の不手際で破損して届いたにもかかわらず、修理に多大な努力をお払いくださりありがとうございました。私にとり、大変大きな意味があるものでした。

今回、2枚目のお皿とともにお送りしたのは、チュニジアで最も有名な伝統的なお菓子で、母と私で選び

ました。甘すぎないのでコーヒーやお茶とともに楽しんでいただけたら幸いです。特に、2枚の皿が並んだ写真を母に見せたところ、「日本の皆さんは特別で実に敬意を表すべき人々だわ」と微笑んでいました。もし、チュニジアを訪れる機会があれば、お知らせください。喜んでガイドを引き受け、我が家へもお招きしたいと思います。

私の研究に関して言えば、取り組んでいる論文の編集集中で、この夏は休暇も取れませんでした。12月には落ち着くと思います。時々、心が折れそうになる時、日本の皆様がいかに強く、計画的で、粘り強く、不屈であることを羨ましく思います。今までは日本人がどうしてそんなに働きすぎるのかよく理解できませんでしたが、今では積極的かつ活動的な気持ちを心掛けるようになり、大変良い刺激となっています。

いつも皆様にお便りができるのは喜びであり、今後も松前国際友好財団のニュースを楽しみにしていますので、引き続き連絡をさせていただきます。本当に皆様のことを私の日本の家族のように感じています。



レミィ・ベルトラン・
テポンノ博士 (カメルーン共和国)
Dr. Remy Bertrand TEPONNO
(Cameroon)

- ①チャン大学 理学部化学科環境応用化学講座 上席講師
- ②2014年度招聘
- ③九州大学 大学院薬学研究院医薬細胞生化学分野 准教授 宮本智文

2016年9月6日

皆様お元気でしょうか？ ご郵送いただいたニュースレター33号が手元に届きました。御礼申し上げます。

松前国際友好財団のご支援により、日本での研究滞在の成果をまとめた私の研究生活の中でも大変重要な論文をお送りさせていただきます。この研究論文は東京の公益財団法人日本薬学会の学術誌「Chemical and Pharmaceutical Bulletin」にも掲載されました。世界中の研究者に寄与される松前国際友好財団の活動に改めて深謝申し上げます。

今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



ボリス・カスパー博士
(ドイツ連邦共和国)
Dr. Boris KASPER
(F.R. of Germany)

- ①ハイドロ・アルミニウム・ドイツユランド 研究員
- ②1994年度招聘
- ③東海大学 工学部応用物理学科 教授 内田裕久

2016年9月13日

ゲンキデス。ドウモ アリガトウ ゴザイマス！
いつもお便りをありがとうございます。皆様お元気ですか？

私たちも順調です。子供の成長は早く、この家を巣立つのも間近でしょう。飲料用アルミ缶製造業界で働き始め、既に15年以上が経ち、今でもこの業界で幸せに働き続けています。出張等で東南アジア諸国を訪問する機会はありませんが、日本を再訪することはできておりません。弊社製品の購入を希望する顧客の開拓ができていないのです。

ここドイツでは真夏の時期よりずっと快適な晩夏を迎えております。私が持つ日本の盛夏の記憶同様、この真夏も暑く、湿度は高いのです。しかし、既に木々の葉も色が変わりつつあり、収穫時期もすぐそこに迫ってきていることが感じられます。

皆様のご多幸をお祈りいたします。



オム・ナット・カテル博士
(ブータン王国)
Dr. Om Nath KATEL (Bhutan)

- ①ブータン王立大学 天然資源学部森林学科 講師
- ②2015年度招聘
- ③名古屋大学 大学院生命農学研究所 生物資源学専攻 教授 原田一宏

2016年10月5日

いつもお便りありがとうございます。筆無精ですみません。

松前国際友好財団の研究奨励金での日本滞日後、私は母国のブータンに戻り、名古屋大学の原田一宏教授の指導のもとで、新たな研究プロジェクトを立ち上げました。まだ確かではありませんが、ひょっとしたら来年に日本を訪問する機会があるかもしれません。

今日は、私の村の写真を少しお送りいたします。緑豊かな光景は、両親の住む南ブータンの村です。そして、両親の住む家。母が飼っている猫と私。そして、国民服を着て列に並んでいる写真は、2016年9月27日に行わ

れた地方政府での選挙に投票所に行った時のものです。

最後に、皆様のご健康をお祈りします。



マーティン・
ドゥラハンスキー博士
(チェコ共和国)

Dr. Martin DRAHANSKY
(Czech Republic)

- ①ブルノ工科大学 情報技術学部 准教授
- ②2014年度招聘
- ③東京工業大学 大学院情報理工学研究科計算工学専攻 教授 篠田浩一

2016年11月2日

「研究紀要」をお送りいただき、ありがとうございます。松前国際友好財団のご支援により、こんなにも多くの興味深い論文が発表されたことは、実に有意義なことです。

最近発表された東京工業大学の篠田教授との共同論文をお送りします。ご覧のように、我々の協力関係は依然活発に続いております。東京で過ごした素晴らしい半年間は、私の人生に大きな意味を持つこととなりました。この機会を与えてくださった松前国際友好財団に改めて御礼申し上げます。

ところで、私に息子が誕生しました。デーヴィッドと名付け、今は生後4カ月になります。再び、私の人生はちょっと変わったのです。

今日が良い日となりますように。ブルノから多くの親愛の意を込めて。



アーメッド・アワード・ハルン
博士

(エジプト・アラブ共和国)

Dr. Ahmed Awad HAROUN (Egypt)

- ①エジプト国立研究センター ポリマー化学部門 教授
- ②2013年度招聘
- ③早稲田大学 先進理工学部応用化学科高分子化学部門 教授 西出宏之

2016年11月14日

私に素晴らしい経験を与えてくださった松前国際友好財団に改めて御礼申し上げますと同時に、効果的に科学と平和な国際関係を築くための援助が継続されることを願っております。私に日本への扉を開けてくださった松前国際友好財団にいつも感謝しております。創設者のお考えは、私に「信頼と友情を通し日本に対する深い理解」を経験するチャンスを与えてくれました。

松前国際友好財団の活動をご支援する寄付者の皆様は社会奉仕への高い意識を持った方々だと思います。また、松前重義先生のお考えに共感し、「汝のパンを水の上に投げよ」の意味を深く理解されているのだと思います。

最後に、日本の豊かな文化、そして美しい風景を発見できたのは素晴らしい経験でした。可能であれば、近い将来、再びこの美しい国を訪問したいと思っております。



エンクバット・レンツェン博士
(モンゴル国)

Dr. Enkhbat RENTSEN (Mongolia)

- ①モンゴル国立大学 数学科 教授
- ②1996年度招聘
- ③茨城大学 工学部情報工学科 教授 鎌田 賢

2016年12月15日

松前国際友好財団のご支援により、最初に日本を訪問してから既に20年の歳月が経ったのが信じられませんが、松前国際友好財団が私にさせていただいたように、今でも世界中の研究者に、日本の研究者との共同研究及び研究者としてのキャリア発展の機会を与え続けてくださっていることを、大変うれしく思います。

20年前の日本での研究滞在の記憶は、昨日のこのように大変新鮮に残っています。その時、私を引き受けていただいた茨城大学の鎌田賢教授は、その後も大きな研究成果を残されており、今では単なる共同研究者の垣根を越え、親友として連絡を取り合っています。鎌田先生は二度も私をモンゴルに訪ねてくださり、私も2017年には茨城の先生の元を訪ねる予定です。

この20年間で研究者としても個人としても多くの変化がありました。私も既に4人の孫がおります。

ここで短く私の科学者としてのキャリアについて書かせていただきます。

現在、モンゴル国立大学ビジネス・スクールの数学の教授をしており、それ以前は数学科長として8年間、その後は数学研究所の所長として5年間勤め、その間に130本以上の論文を発表しました。私の最初の著作である「準凸 (Quasiconvex) プログラミング」が2009年にドイツで出版され、2002年、2010年及び2013年に共著3作も出版しました。現在までに博士課程11名を指導し、研究活動で20カ国以上を訪問しました。さらに、米国のフルブライト・プログラム、日本学術振興会 (JSPS)、ドイツ学術交流会 (DAAD) 他、ロシアや韓国のフェローシップも得て、研究活動を行いました。

松前国際友好財団には20年前にご支援いただき、世界中の科学者との共同研究を通じ目標を追い続けるよう勇気づけられ、改めて深謝申し上げます。

最後に、メリー・クリスマス、そして良いお年をお迎えください。

ら、新年のご多幸をお祈りいたします。



アダマ・テリー・ジェブキリ博士 (マリ共和国)

Dr. Adama Telly DIEPKILE (Mali)

- ①バマコ科学技術大学 科学技術学部 助教授、研究員
- ②2016年度招聘
- ③三重大学 大学院生物資源学研究所 教授 松村直人

2017年1月21日

マリから見た日本の視点

ここで書かれていることは信じ難いかもしれませんが。事実、マリから日本に渡り、新生活を始めるには従来からの通念を文字通り「破壊」する必要がありました。「日出づる国」として知られる日本は幾千もの島々から成り立つ列島です。しかし、地理的な特質のみならず、日本は技術、社会文化的なライフスタイルに関して独特の文化を有する国であります。

2016年の春、東京の松前国際友好財団研究奨励金制度により私の経験は始まりました。日本の首都東京は、多くの県を有する日本最大の島、本州に位置しています。私の滞在した短い名前を持つ津市は、この国のほぼまん中に位置する三重県の県庁所在地です。この静かで平和な街にある三重大学キャンパスは「三翠キャンパス」と呼ばれています。「空のみどり、樹のみどり、波のみどり」の三つのみどり (翠) に由来しています。森林計画を専門とする松村直人教授の研究室は、生物資源学部・共生環境学科に所属し、森林測量にドローン (自律型無人航空機) を活用しています。

松前国際友好財団の理念は世界の人々の間で信頼および友好を通じて継続的かつ恒久的な平和を構築することであり、この理念のもと、国内研修旅行、研究発表会等多くの行事を催しています。

三重県内では2016年5月にG7首脳会議が開催された賢島、鳥羽水族館、ミキモト真珠島、鳥羽中央公園、伊勢神宮、津城とお寺、恐竜展示のある三重県総合博物館を訪れました。

国内研修旅行では日本の文化と平和、歴史と発展について深く理解することができました。また、この旅行では古都京都と奈良の神社仏閣、広島平和記念資料館と平和記念公園、宮島水族館等を見学することができました。

2016年東京ミーティングは現代の日本の成功をより深く理解する良い機会でした。また、世界の諸先輩方、同僚から直近の科学技術に関する講演を拝聴できる素晴らしい機会でもありました。そして自身の研究者としてのスキルを磨く好機でもありました。



モハマッド・カリル・ガジ博士

(バングラデシュ人民共和国)

Dr. Md. Khailil GAZI (Bangladesh)

- ①バングラデシュ工科大学 元教授
- ②1987年度招聘
- ③東京大学 工学部 船舶工学科 教授 梶谷 尚

2017年1月6日

先日は素敵なお送りいただき、誠にありがとうございました。

松前国際友好財団が私を日本へご招待くださったことに今でも深く感謝しております。私は1987年7月より6カ月間、東京大学の工学部船舶工学科にて研究をさせていただきました。同大学の梶谷尚教授と、宮田秀明教授のご指導のもと、船舶流体力学の研究により、多くの新しい知識を得ることができました。日本での研究滞在は人生における黄金期であったと考えております。東京大学で得た研究経験、知識は教員としての私のキャリアに大変有用なものとなりました。この場を借りて、41年間 (1973年~2014年) にわたり、バングラデシュ工科大学 (BUET) にて海洋流体力学の教授として務めてきたことをご報告いたします。私は日頃から、教え子や友人に日本人がいかにか親切であるか伝えてきました。

日本は本当に美しく、素晴らしい国です。末筆なが

2016年度 研究奨励金受給者紹介

1：本国での勤務先 2：日本での受入研究機関・指導教官 3：研究テーマ (敬称略)



プシェミスラフ・ピョトル・ゴレッキ (ポーランド共和国)

Dr. Przemyslaw Piotr GORECKI (Poland)

- 1：ヴァルミア・マズーリィ大学 数学コンピュータ科学科 助教授
- 2：大阪大学 大学院基礎工学研究科システム創成専攻社会システム数理領域 教授 乾口雅弘
- 3：深層学習によるファジィルール表現を用いた知識の抽出と挿入



**アフメッド・アブデルサタール・アフメッド・ガルフム
(エジプト・アラブ共和国)**

Dr. Ahmed Abdelsattar Ahmed GALHOUM (Egypt)

- 1：エジプト核物質科学研究所 銻処理部門 講師
- 2：法政大学 生命科学部環境応用化学科 教授 明石孝也
- 3：乾式プロセスを用いた産業廃棄物からのセシウムの回収



アダマ・テリー・ジェプキリ (マリ共和国)

Dr. Adama Telly DIEPKILE (Mali)

- 1：バマコ科学技術大学 科学技術学部 助教授、研究員
- 2：三重大学 大学院生物資源学研究科共生環境学専攻地球システム学講座緑環境計画学 教授 松村直人
- 3：マリにおける空間情報に関する科学技術の発展プログラムの提案



アレクセイ・セテイキン (ロシア連邦)

Dr. Aleksei SETEIKIN (Russia)

- 1：アムール大学 物理学科 准教授
- 2：静岡大学 工学部機械工学科 教授 川田善正
- 3：ナノ粒子を含むバイオ組織での光散乱および熱効果の解析とその応用



ソロモン・マハラテ・イエニソウ (エチオピア連邦民主共和国)

Dr. Solomon Mehretie YENIESEW (Ethiopia)

- 1：アジスアベバ大学 自然科学部化学科 助教授
- 2：京都大学 大学院農学研究科地域環境科学専攻生物生産工学講座 教授 近藤 直
- 3：エチオピアからはちみつの品質ならびに信頼評価のための分光法に基づくケモメトリクスアプローチ



イレシャ・ニルマリ・マティワラゲ (スリランカ民主社会主義共和国)

Ms. Iresha Nirmalie MATIWALAGE (Sri Lanka)

- 1：スリランカ・オープン大学 自然科学部健康科学科 コンサルタント
- 2：武庫川女子大学 国際健康開発研究所 講師 森 真理
- 3：生活習慣病予防のための新しいスリランカでの食育プログラムの開発



ピュー・ピュー・ミン (ミャンマー連邦共和国)

Dr. PHYU PHYU MYINT (Myanmar)

- 1：シットウェイ大学 化学科 准教授
- 2：名古屋大学 大学院生命農学研究科応用分子生命科学専攻生理活性物質化学 教授 小鹿 一
- 3：ミャンマー産バナバ（ミソハギ科植物）の化学成分および抗糖尿病成分に関する研究



ローシャヌール・ハビブ (バングラデシュ人民共和国)

Dr. Md. Rowshanul HABIB (Bangladesh)

- 1：ラジシャヒ大学 生化学分子生物学科 助教授
- 2：富山県立大学 生物工学研究センター 教授 五十嵐康弘
- 3：バングラデシュ薬用植物からの乳癌幹細胞に有効な抗癌活性物質の探索



マリア・エミリア・クロセ (アルゼンチン共和国)

Dr. Maria Emilia CROCE (Argentine)

- 1：アルゼンチン国立科学技術研究会議 ポスドク研究員
- 2：北海道大学 大学院理学研究院生物科学部門多様性生物学分野 准教授 小亀一弘
- 3：アルゼンチンと日本の海藻における形態および分子の類似性：経済的価値を持つ移入種の同定



ソリン・オラル (フランス共和国)

Dr. Sorin OLARU (France)

- 1：グランゼコール・高等電気学校 (Supelec) シグナルシステム研究室 教授
- 2：九州工業大学 情報工学部システム創成情報工学科 教授 伊藤 博
- 3：無駄時間システムの拘束制御法の開発と結合システム解析と設計への応用



アラン・メリ・ラナン (カメルーン共和国)

Dr. Alain MELI LANNANG (Cameroon)

- 1：マルア大学 高等教員養成学部 化学科 上席講師
- 2：山形大学 農学部食料生命環境学科食品・応用生命科学コース発酵制御学分野 教授 塩野義人
- 3：カメルーン産薬用Kniphofia Reflexaの内生菌の生産する化学物質について



ジャン・デ・ジー・タモクウ (カメルーン共和国)

Dr. Jean-De-Dieu TAMOKOU (Cameroon)

- 1：チャン大学 理学部生化学科 上席講師、研究員
- 2：帝京大学医真菌研究センター 教授 関水和久
- 3：ヒトに対する病原微生物のカイコ感染モデルを用いた、カメルーンの植物成分の治療効果の評価



マルコス・エデル・マルティネス・モンテロ (キューバ共和国)

Dr. Marcos Edel MARTINEZ MONTERO (Cuba)

- 1：シエゴ・デ・アヴィラ大学 生物植物センター 上席研究員
- 2：農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構） 遺伝資源センター 主任研究員 山本伸一
- 3：クライオプレートガラス化法を用いたパイナップルの超低温保存

1：本国での勤務先 2：日本での受入研究機関・指導教官 3：研究テーマ



シェフィ・トリキ (イタリア共和国)

Dr. Chefi TRIKI (Italy)

- 1：サレント大学 数学物理自然科学部 助教授
- 2：筑波大学 大学院システム情報工学研究科社会工学専攻 教授 吉瀬章子
- 3：電子調達に対する組合せオクシオンに基づく電力スポット市場の最適化モデル



ジョン・オルワシヨグ・アヨリンディ (ナイジェリア連邦共和国)

Dr. John Oluwasogo AYORINDE (Nigeria)

- 1：イバダン大学 薬学部製薬産業薬学科 講師
- 2：大阪薬科大学 薬学系臨床科学領域製剤設計学研究室 教授 戸塚裕一
- 3：新規植物ゴムによる糖尿病治療を目指した経肺投与DDS製剤の設計



ゾリツァ・セルジェヴィッチ (セルビア共和国)

Dr. Zorica SRDEVIC (Serbia)

- 1：ノヴィ・サド大学 農学部水管理学科 准教授
- 2：北海道大学 大学院工学研究科環境創生工学部門水代謝システム分野 教授 船水尚行
- 3：水管理における住民参加：Grounded理論による問題点把握法の開発



チャブダー・カメノフ・フィリポフ (ブルガリア共和国)

Dr. Chavdar Kamenov FILIPOV (Bulgaria)

- 1：ソフィア森林大学 獣医学部 助教授
- 2：埼玉大学 大学院理工学研究科戦略的研究部門 准教授 ルカノフ・アレクサンダー・ルメノフ
- 3：炭素ナノ粒子を用いた新しいがん治療法の開発



フローラ・ハジイエバ (アゼルバイジャン共和国)

Dr. Flora HAJIYEVA (Azerbaijan)

- 1：バクー州立大学 物理学部ナノ素材化学物理学科 助教授
- 2：熊本大学 工学部物質生命化学科 准教授 高藤 誠
- 3：高周電磁波吸収機能をもつ磁性ナノコンポジットの創成



プラパイラ・シーポンカイ (タイ王国)

Dr. Prapairat SEEPHONKAI (Thailand)

- 1：マハーサーラカム大学 理学部化学科 講師
- 2：千葉大学 大学院薬学研究院活性構造化学研究室 教授 石橋正己
- 3：疾患関連細胞シグナルに作用する生物活性天然物の探索



ヌルフダ・マンシュール (マレーシア)

Dr. Nurhuda Binti MANSHOOR (Malaysia)

- 1：マラ工科大学 薬学部 上席講師
- 2：徳島文理大学 薬学部薬化学研究室 教授 浅川義範
- 3：日本産ゼニゴケ類の筋弛緩および抗腫瘍治性成分の構造解析および生物活性試験



カルメン・マリア・パラダス・ロペス (スペイン)

Dr. Carmen Maria PARADAS LOPEZ (Spain)

- 1：セビリヤ生物医学研究所 ロシオ・バージン大学病院 神経科医
- 2：国立精神・神経医療研究センター神経研究所 疾病研究第一部 部長、博士 西野一三
- 3：POGLUTI変異による肢帯型筋ジストロフィーの病態解明



バッホディル・エシュチャノフ (ウズベキスタン共和国)

Dr. Bakhodir ESHCHANOV (Uzbekistan)

- 1：ウズベキスタン国立大学 物理学科 准教授
- 2：東海大学 工学部電気電子工学科 教授 遊部雅生
- 3：レーザを用いた化学物質の分光



ガストン・ラディスラオ・フエンテス・エステベス (キューバ共和国)

Dr. Gaston Ladislao FUENTES ESTEVEZ (Cuba)

- 1：ハバナ大学 生体材料学センター セラミクス・メタリック生体材料学科 上席研究員
- 2：京都大学再生医科学研究所 生体組織工学研究部門生体材料学分野 教授 田畑泰彦
- 3：天然高分子とリン酸カルシウムからなる複合バイオマテリアルの生物学的評価



スタンレイ・チュクドズィエ・オヌオハ (ナイジェリア連邦共和国)

Dr. Stanley Chukwudozie ONUOHA (Nigeria)

- 1：エボニ州立大学 理学部生物工学科 講師
- 2：鳥取大学 乾燥地研究センター 緑化保全部門 准教授 谷口武士
- 3：植物の耐乾性向上を目指した有用な根圏微生物の探索



ドゥミトロ・フェドリネンコ (ウクライナ)

Dr. Dmytro FEDORYNENKO (Ukraine)

- 1：チェルニーヒウ州立工科大学 機械工学・木工学科 教授
- 2：神奈川大学 工学部機械工学科 教授 中尾陽一
- 3：静圧軸受を備えた精密スピンドルのエネルギー効率の向上



メルラン・グンティエ・デッツ (カメルーン共和国)

Dr. Merlin GOUNTIE DEDZO (Cameroon)

- 1：マルア大学 高等教員養成学部 生命地球科学科 講師、上席研究員
- 2：東海大学 理学部化学科 教授 大場 武
- 3：バンボウト・バメンダ山 (カメルーン火山列) における溶結凝灰岩の地球化学・鉱物学・岩石成因論



マイア・クツィシュビリ (ジョージア)

Dr. Maia KHUTSISHVILI (Georgia)

- 1：ジョージア農業大学 昆虫学研究所 養蚕研究室 研究員
- 2：九州大学 大学院農学研究院附属教育研究施設 遺伝子資源開発研究センター 教授 伴野 豊
- 3：カイコの超低温保存技術と遺伝マーカーを用いた管理法に関する研究

1：本国での勤務先 2：日本での受入研究機関・指導教官 3：研究テーマ



アブドゥラヒム・クチュボエフ (ウズベキスタン共和国)

Dr. Abdurakhim KUCHBOEV (Uzbekistan)

- 1：ウズベキスタン科学アカデミー 動植物遺伝子プール研究所 分子生物学・生物工学研究室 研究員
- 2：酪農学園大学 獣医学部感染・病理教育群、野生動物医学センター 教授 浅川満彦
- 3：ウズベキスタン共和国における変円虫目プロストロンギルス科幼虫の形態および分子生物学的手法を用いた中間宿主陸上貝類からの検出



シルビナ・パゴラ・オービン (アメリカ合衆国)

Dr. Silvana PAGOLA AUBIN (U.S.A.)

- 1：ウィリアム・アンド・メアリー大学 応用科学科 科学研究員
- 2：国立研究開発法人理化学研究所 加藤分子物性研究室 主任研究員、博士 加藤礼三
- 3：単一成分4,5-テトラチアフルバレン ジチオレート金属錯体の合成、構造、輸送特性

研究奨励金制度のご案内

研究奨励金給付の対象者：

研究奨励金の対象者は、外国国籍を有し、来日経験のない、博士課程を修了した49歳以下の優れた資質を備えた研究者を対象としています。その趣旨は、世界各国の有為な人材を招聘し、日本への理解を深めることによって友好親善の道を拓き、両国間はもちろん世界各国相互の恒久平和の道を拓くことを目的としているからです。

日本における研究機関：

受入研究機関については、国内のあらゆる大学の研究室、国公立研究所、さらには各企業の研究所など、受諾可能な研究機関を自由に選択することができます。

国際線航空券と滞在中の諸経費を支給：

招聘者の母国～東京間の往復航空券、東京到着後の受入研究機関までの交通費、および住居の契約料や生活関連諸経費として来日一時金を支給し、さらに気候、習慣の違う我が国での病気やケガなど不測の事態に対処するための保険なども支給いたします。

拘束されないユニークな給付制度：

本財団の研究奨励金を給付された招聘者は、日本滞在終了後に母国に帰国した後は、何ら拘束されることはありません。それは本財団の研究奨励金制度がドイツのフンボルト財団の構想と精神を範とし、創業者松前重義博士の崇高な理念をもとに発足したユニークな給付制度であるからです。

招聘する研究者へのサービス：

【国内研修旅行】

日本に対する理解を深めることを目的に、本財団で招聘した研究者を対象に、国内研修旅行を実施します。

【研究紀要】

日本研究滞在中の終了にあたって、本財団が受け取った研究成果などは、毎年発行する「研究紀要」に掲載します。

【帰国後の招聘者との連絡】

本財団との終生の友情を保つため、本財団では毎年、「ニュースレター」及び「奨学者名簿」を作成し送付します。

詳細については、「募集要項」を事務局までご請求ください。

本財団ホームページでご覧いただくこともできます。 <http://www.mif-japan.org>



奨学者国内研修旅行



本財団の研究奨励金制度で来日された外国人研究者は、本財団が計画する国内研修旅行に招待されます。これは日本滞在中、研究活動のみならず我が国の自然、歴史、文化、産業についてもよく理解していただくことを目的としております。2016年11月に実施した、国内研修旅行には9カ国から10名の研究者が参加されました。



▲ 奈良：法隆寺夢殿にて



◀ お茶席体験
京都：有斐斎弘道館にて



▲ 宮島：弥山山頂にて



広島：平和公園にて ▶

国内研修旅行に参加して

編集・翻訳責任：松前国際友好財団

プラパイラ・シーポンカイ博士 (タイ王国) Dr. Prapairat SEEPHONKAI (Thailand)

- ①マハーサーラカム大学 理学部化学科 講師
- ②千葉大学 大学院薬学研究院活性構造化学研究室 教授 石橋正己

この旅行はとても楽しいものでした。日本人が宗教や自然に深く結びついていることを学びました。お寺や、人々の強い信仰心に印象を受けました。また、旅行を通じて知り合った研究者との相互理解とつながりはとても良い経験となりました。

2016年度の研究奨励金をいただいたことは、大変名誉なことでもあります。皆様のご親切なお心と、この日本で著名な研究者とともに研究に従事して、たくさんの科学的知識を得ることができました。また、母国タイで私が勤務する大学と日本で私を受け入れてくださった千葉大学と強い協力関係を持てたことは、私にとって大変重要な一歩であります。日本の文化を学び、日本の美しい名所を訪れ、新しい友人に出会えたことは大変幸せなことでした。皆様のご支援がなければ、このような貴重な経験は、私の人生に起こり得なかったでしょう。本当に感謝いたします。皆様のご多幸と安らぎを心よりお祈りいたします。

バッホディル・エシュチャノフ博士 (ウズベキスタン共和国) Dr. Bakhodir ESHCHANOV (Uzbekistan)

- ①ウズベキスタン国立大学 物理学科 准教授
- ②東海大学 工学部電気電子工学科 教授 遊部雅生

私は今までに日本について、いくらかの情報は持っていましたが、自分の目で見て、日本人と研究を始め、共に実験を行い、同じ空気を吸うことで、真の日本人を理解することができました。この旅行の後で、あらためて世界の平和を求める努力をしているこの国日本が偉大であることを確信しました。

国内研修旅行に行く前は、私は日本の文化を何

一つ知らなかったのですが、この旅行を通じて多くのことを学びました。

日本に来てから、皆様はとても気持ち良く私を受け入れてくださいました。そして、日本での研究を遂行する環境を完璧に作っていただきました。松前財団を支援する皆様に感謝いたします。

アブドゥラヒム・クチュボエフ博士 (ウズベキスタン共和国) Dr. Abdurakhim KUCHBOEV (Uzbekistan)

- ①ウズベキスタン科学アカデミー 動植物遺伝子プール研究所 分子生物学・生物工学研究室 研究員
- ②酪農学園大学 獣医学部感染・病理教育群、野生動物医学センター 教授 浅川満彦

松前国際友好財団は、5日間に及ぶ国内研修旅行を企画してくださいました。私にとって、エキゾチックな国日本。旅行では京都、奈良、広島、宮島を訪問し、自動車工場も見学し、日本についてたくさん学ぶことができました。素晴らしい旅行に感謝します。日本の研究者の方々とともに意義ある、そして実のある協力関係を強く望んでおります。今後、我が国ウズベキスタンからもっと多数の研究者が、松前財団の招聘を受けることを望みます。

シルビナ・パゴラ・オービン博士 (アメリカ合衆国) Dr. Silvina PAGOLA AUBIN (U.S.A.)

- ①ウィリアム・アンド・メアリー大学 応用科学科 科学研究員
- ②国立研究開発法人理化学研究所 加藤分子物性研究室 主任研究員、博士 加藤礼三

私は、国内研修旅行をとても楽しむことができました。同行した他の皆さんもそうだと思いますが、素晴らしい経験でした。きめ細やかな旅行の手配でありました。北米や南米と比べ、日本はどの程度似ていて、また違うのかについてわずかな

国内研修旅行に参加して

考えがありました。そして、今は、日本の歴史、宗教や文化について、もっとたくさん知ることができました。旅行を通じて最も印象的だったのは、広島平和公園の訪問でした。そこでは、核兵器の人々へもたらす影響や、第二次大戦について論じられる際に、歴史観が十分に論じられなかったことなども知りました。

その他、マツダの自動車工場の見学、京都の金閣寺も印象的でした。

このような機会を与えてくださった松前国際友好財団の活動を支えてくださる皆様に感謝申し上げます。日本の歴史、そして核兵器のことなどを多くの人々に広めるのに、広島とその歴史についてのショートビデオや、映画などを準備することは、大変効果的だと思います。第二次大戦に関するアメリカ版では、核戦争が起こす破壊については十分に学ぶことができません。このようなビデオを参加者はそれぞれの母国に持ち帰れたらと思います。



マイア・クツィシュビリ博士 (ジョージア)
Dr. Maia KHUTSISHVILI (Georgia)

- ①ジョージア農業大学 昆虫学研究所 養蚕研究室 研究員
- ②九州大学 大学院農学研究院附属教育研究施設 遺伝子資源開発研究センター 教授 伴野 豊

国内研修旅行はとても印象的で、日本の文化、伝統、製造業、広島平和公園・資料館などを紹介していただきました。そして、日本料理のその多種多様さ、建築物など、日本の美を見る機会を得て、大変うれしかったです。この旅行に参加した我々は、日本の都市や歴史に触れることができました。

私は、この財団を支えている皆様に感謝いたします。日本は科学を重要視する国で、大変高い水準を持っており、若き科学者にとってより高度な資格を得ることのできる機会がたくさんあります。その結果、それぞれの国にあらゆる面で革新的なものをもたらすことでしょう。質の高い科学者になれる機会を皆様からいただきました。



スタンレイ・チュクドズィエ・オヌオハ博士 (ナイジェリア連邦共和国)
Dr. Stanley Chukwudozie ONUOHA (Nigeria)

- ①エボニ州立大学 理学部生物工学科 講師
- ②鳥取大学 乾燥地研究センター 緑化保全部門 准教授 谷口武士

私にとって、松前国際友好財団の援助で日本に滞在できたことは、これまでの生涯の中でとても素晴らしい経験の一つにあげることができるでしょう。松前財団は、日本の文化、国土、人々について知る機会をくださいました。そして、国内研修旅行を通じて得たことは、世界各地から参加している研究者と知り合い、交流を持つ道筋をつけてくれたことでもあります。松前財団を創設された松前重義博士には、心より感謝を申し上げるとともに、その財団の使命に対する燃えるような熱意は決して消えないものであります。今回の旅行は、私にとって、とても素晴らしいものでした。

松前財団の活動をサポートしてくださる皆様は、世界の発展と平和に絶えず貢献し、人々の将来に影響を与えているのです。

ありがとうございます。



ドゥミトロ・フェドリネンコ博士 (ウクライナ)
Dr. Dmytro FEDORYNENKO (Ukraine)

- ①チェルニーヒウ州立工科大学 機械工学・木工学科 教授
- ②神奈川大学 工学部機械工学科 教授 中尾陽一

国内研修旅行は、言葉にならないくらい素晴らしいものでした。このような体験は生涯初めてです。そして、日本はなんと美しいことか。旅行中の、友好的な雰囲気と親切なお心遣いにとても感謝いたします。私たち参加者は、よく練られたこの旅行により4泊5日という短い期間にもかかわらず、日本の伝統や、豊富な文化遺産、和食、高い技術の成果、そして、豊かな自然などを体験することができました。

この財団の目的と使命に賛同され、財団の事業にご寄付をされる皆様に、心の底より感謝を申し上げます。



▲ 在日ブルキナファソ国大使閣下が本財団内田裕久理事長を表敬訪問
(右より：フランソワ・ウビダ大使閣下、バンジャマン・ナナー等参事官、2016年10月5日)



◀ 2009年度タイ国奨学者
ソンギョット・アノチャブリーダ博士
(2016年10月27日)



▲ 2009年度スペイン国奨学者
ホセ・ホアキン・ロデス・ロカ博士
(2016年12月8日)

**修了奨学者が
本財団を訪問**



◀ 2011年度ベラルーシ国奨学者
ディミトリ・コスティン博士
(2016年12月27日)

研究奨励金制度による研究者招聘実績

1980年度より2016年度まで

1. 性別

男性	558
女性	217

2. 国籍・地域別

アジア <229>

中華人民共和国	41
インド	36
タイ	23
バングラデシュ	15
ミャンマー	15
インドネシア	14
フィリピン	14
ベトナム	14
マレーシア	12
パキスタン	11
スリランカ	10
モンゴル	8
ネパール	8
韓国	2
ラオス	2
シンガポール	2
ブータン	1
台湾	1

大洋州 <7>

オーストラリア	4
ニュージーランド	2
フィジー	1

中東 <66>

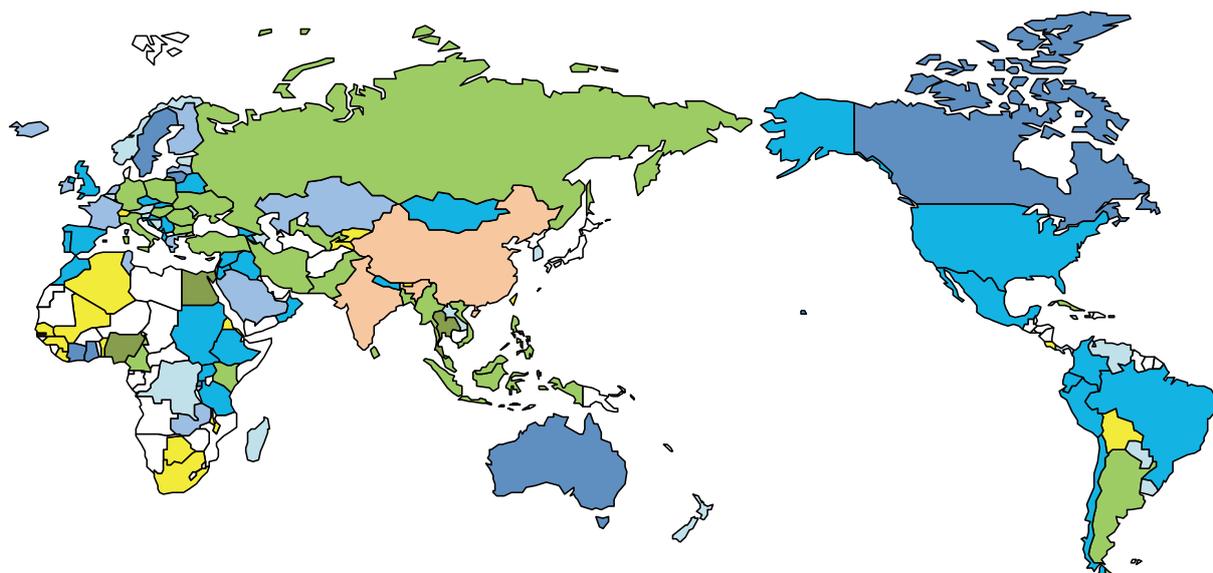
トルコ	17
イラン	10
イラク	9
ヨルダン	8
イスラエル	7
シリア	6
オマーン	5
サウジアラビア	3
レバノン	1

アフリカ <142>

エジプト	25
ナイジェリア	23
ケニア	14
カメルーン	10
スーダン	9
タンザニア	8
エチオピア	7
ウガンダ	7
モロッコ	5
コートジボワール	4
ガーナ	4
ルワンダ	4
チュニジア	3
ザンビア	3
ブルンジ	2
コンゴ民主共和国	2
マダガスカル	2
アルジェリア	1
ベナン	1
ボツワナ	1
エリトリア	1
ギニア	1
リベリア	1
マラウイ	1
マリ	1
セネガル	1
南アフリカ	1

北米 <13>

アメリカ合衆国	9
カナダ	4



中南米 <81>

キューバ	15
アルゼンチン	11
ブラジル	9
メキシコ	9
コロンビア	8
チリ	7
エクアドル	5
ペルー	5
ジャマイカ	2
パナマ	2
パラグアイ	2
ウルグアイ	2
ベネズエラ	2
ボリビア	1
コスタリカ	1

ヨーロッパ <237>

ポーランド	16
ウズベキスタン	16
ブルガリア	14
ロシア	14
ハンガリー	13
ウクライナ	12
イタリア	11
ルーマニア	11
ドイツ	10
チェコ	9
スペイン	9
セルビア	8
クロアチア	6

ジョージア	6
スロバキア	6
アルバニア	5
アルメニア	5
ベラルーシ	5
ポルトガル	5
イギリス	5
リトアニア	4
スウェーデン	4
フィンランド	3
フランス	3
ギリシャ	3
アイスランド	3
アイルランド	3
カザフスタン	3
ラトビア	3
オランダ	3
オーストリア	2
アゼルバイジャン	2
ベルギー	2
エストニア	2
モルドバ	2
ノルウェー	2
スロベニア	2
ボスニア・ヘルツェゴビナ	1
キルギス	1
スイス	1
タジキスタン	1

合計 (115カ国) 775名

法人会費・寄付金を以下の皆様よりいただきました。 深く感謝申し上げます。

(期間：2016年9月1日～2017年2月28日、敬称略、順不同)

法人会費

[群馬県]

株式会社ナカヨ

[東京都]

株式会社ジェー・シー・シー
株式会社東海教育研究所
港北出版印刷株式会社
横浜倉庫株式会社
秀和ビルメンテナンス株式会社
株式会社エフエム東京

[神奈川県]

東海ウイング株式会社
山王総合株式会社

[静岡県]

ヤマダユニア株式会社
鈴与建設株式会社

寄付金

[北海道]

大場 禮二

[秋田県]

加賀谷 毅

[岩手県]

吉田 稔

[茨城県]

田所 啓弘
武藤 忠行

[埼玉県]

長谷川 博之

[千葉県]

外館 悟

[東京都]

横堀 禎二
岡本 定勝
加川 正彦
笠巻 孝嗣

梶田 順子
吉野 賢三郎
橋本 敏明
堅谷 朝基
後藤 亘
春日 康弘
小松 はるの
小松 哲彰
小泉 裕
松下 一男
松崎 松平
新井 義一
新井 秀和
森井 雅道
西郷 勝行
田辺 佐敏
藤野 陽三

[神奈川県]

宇佐美 彰朗
吉田 茂
吉本 旬志
橘 裕司
及川 充
原 広子
荒井 準幸

佐藤 美成
佐藤 和紀
山内 正彌
深水 一夫
須藤 正章
杉下 道生
曾我 喜三郎
渡部 重行
尾郷 けい
平井 克己
片瀬 敏行
堀口 雅巳
木村 豊
野村 貴美
柳沢 真一
鈴野 君枝
和田 弘
脇 靖男

[石川県]

高田 剛

[静岡県]

岡田 喜裕
五十嵐 正晃

[大阪府]

梶野 郁子
野村 公寿

[兵庫県]

森 昌彦

[島根県]

宮永 龍一
前田 泰生
藤間 恵一

[熊本県]

大原 淳
北脇 秀樹

ご寄付に対する税制上の 優遇措置のご案内

公益財団法人松前国際友好財団に対して寄付金（法人会員の場合は会費）のご協力をいただくと、次の税制上の優遇措置が受けられます。

個人の場合（所得税）

個人が公益財団法人松前国際友好財団に支出した金額は、特定寄付金に該当し寄付金控除が受けられます。
（例）寄付金額が5,000円の場合は、2,000円を控除して3,000円が寄付金控除額となります。

法人の場合

公益財団法人に対する損金算入限度額は通常の寄付金の損金算入限度額と同額以上が別枠として損金算入することが認められています。

※その他、詳しくは最寄りの税務署にお尋ねください。

本財団へのご寄付について

寄付金：個人・法人、金額に制限はありません。

法人会費：法人会員へのご加入につきましては、本財団までご連絡ください。

法人年会費 一口10万円から

振込方法：ゆうちょ銀行でお振り込みください。

口座番号：00100-4-49831

加入者名：公益財団法人 松前国際友好財団

本財団が用意いたしました「払込取扱票」をご利用いただいた場合、振込手数料は本財団が負担いたします。この「払込取扱票」については、本財団までご請求ください。

お問い合わせは：

公益財団法人 松前国際友好財団
〒167-0043 東京都杉並区上荻4-14-46

TEL：03-3301-7600 FAX：03-3301-7601

URL：http://www.mif-japan.org

E-mail：contact@mif-japan.org